①　道徳の授業　城東スタイル　資料分析

■資料読み　主人公，助言者，内容項目，中心発問

・始めは，指導書等の注釈，内容項目，中心発問等のない素の資料を読む。

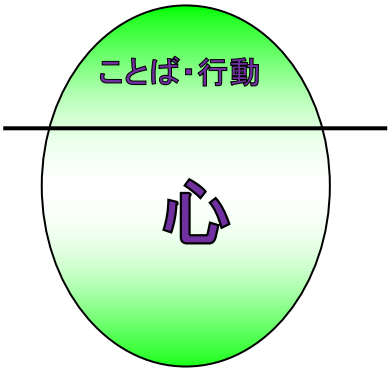
① 誰の視点で読むか決める　　主人公：道徳的に最も大きく変化した人物

② 助言者を確認する

③ 内容項目を決める

④ 中心発問を決める　　箇所を決める　→　問い方を考える

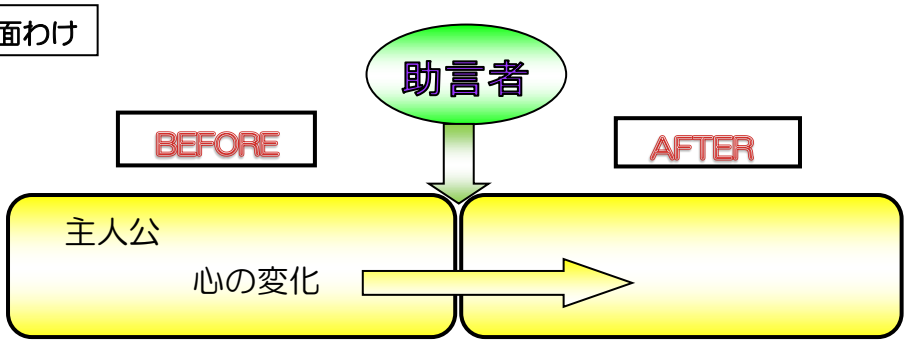
⑤ 補助発問を決める　　中心発問，補助発問を併せて３つ程度が望ましい。



・発問は，主人公の言葉・行動の奥にある心を問う。
・主人公の「着ぐるみ」を着て考えさせる。

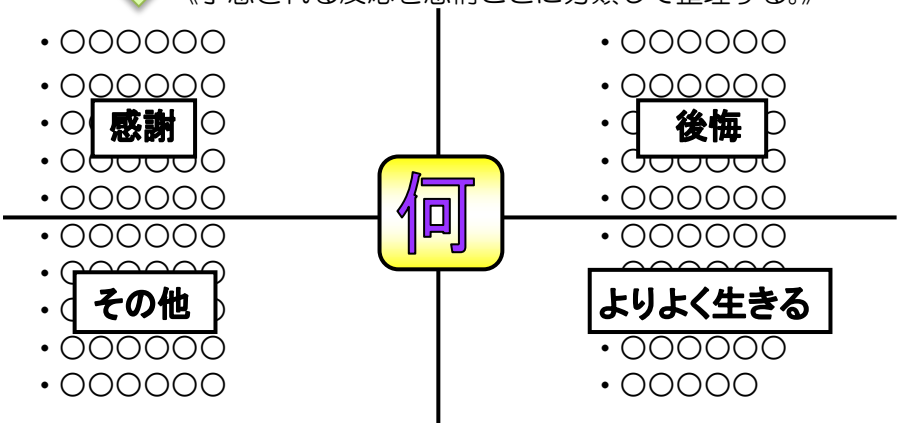
・指導書は参考にするもの。
・あてにしてはいけない！

■場面わけ



■中心発問の検証　発問に対する生徒の予測される答えを２０程度予測し分類する。
思考を深める発問であるか。

《予想される反応を感情ごとに分類して整理する。》



② 道徳の授業　城東スタイル　授業構成

■ 導入

○ 導入は簡潔に　　例　道徳の時間は「生きる」ことについて考える時間です

○ 導入は，マイナスから入らない

【めざす道徳授業　「心を揺さぶる」道徳授業】
授業をとおして，生徒と一緒に新たな発見ができる

■ 展開

① 資料を読む　　教師が範読する

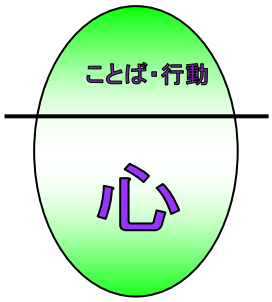
② 主な登場人物を確認する

③ 主人公を確認する

④ 内容を確認する

【中心発問のポイント】
① 生徒の多様な考えを引き出す問いを工夫する
②「書かれていること」は問わない
③「ことば」「行動」の根本にある「心」を問う
④ 第３者的な「評価」を問わない

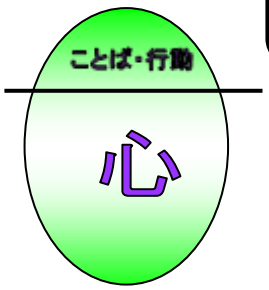
⑤ 発問１



・生徒が応えるときは，黒板付近から生徒に近づき正対し，受容する態度を示す

⑥ 発問２

「助言者」とは？
・主人公の「道徳的変化」について，重要な示唆を与える存在。人物とは限らない。物の場合もある。
・ねらいとする「価値」を体現している存在。あるいはその逆。



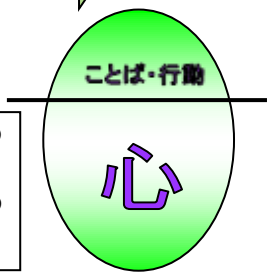
・中心発問は，生徒全員に順に指名する
・順に指名することで，生徒は，それまでの発言と自分の考えをつなぎ合わせ，より深く考える

・生徒の応えには，意図的に肯定的評価をするとともに，より深める発問により道徳的価値を考えさせる

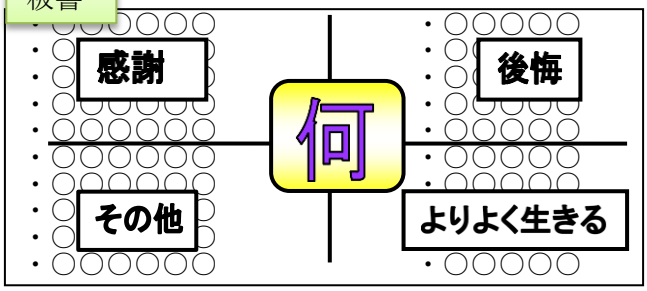
・生徒意見は，分類し簡潔にキーワード等板書し一人一人を受容する

⑦ 中心発問

・どんな「中心発問」が，生徒の心を揺さぶるか？
・全ての発問は，「道徳的価値の自覚」を深めるために行う。



板書



⑧ 深める発問

■ 終末

○ 終末は，あっさりと，余韻を残して

○ 本日の授業の感想と，評価をプリントに書かせる

■翌日のHR

○ 授業の感想から生徒意見を何人か記述した道徳通信により，道徳的価値の自覚を深める

③　道徳の授業　城東スタイル　評価，切替えし発問

■生徒の発言を，あたたかく受けとめる言葉

- すごいなぁ
- すてきやなぁ
- ええなぁ
- なるほどなぁ
- うんうん
- ええこと言うなぁ
- かっこいい！
- ビッグ！
- みんなすばらしい！
- 拍手！
- ありがとう！
- 読みが深いなぁ
- わかった！
- 君らすごいなぁ
- お～！
- いいねぇ
- がんばれ
- わかるなぁ

道徳授業の中で，受けとめる言葉を何度も使うことは，どの授業，どの場面でも有効です。

先生が・・・
受 容　承 認　賞 賛
復唱　共感
あいづち　うなずき

→

生徒は・・・
言いやすい雰囲気になる
安心して発言ができる
自分自身を受けとめてもらえる
自己肯定感が高まる

生徒の発言を大切にする → 生徒を大切にする

■生徒の発言を深める，より深める発問

- 「何で？」（何でそう思うの？）
- 「何が？」（何がすごいの？）
- 「どれくらい？」（どれくらい大きいの？（どれくらいかっこいい？）
- 「自分はどう？」（自分と比べてみてどう？）
- 「どこで？」（どこの部分でそう思った？）
- 「どんなことを？」（どんなことを戒めようと思ったの？）
- 「どんな夢がありますか？」
- 「どんな道を歩きたいですか？」
- 「あなたは意志が強いですか？」
- 「君のかっこいいところは？」
- 「そのレールはどこまで続いていくのか？」

生徒が考えるのをじっと待つことも大切です。

先生が・・・
「何を感じた？」「どうして？」と理由を聞く

↓

生徒は・・・
自分の言葉で返さなければならない。
自分と主人公を比較し，自分の思いを聞かれるので，自分自身と資料を重ねていく。

↓

資料の内容と自分がつながる。
仲間の意見を聞いて自分の意見を答える。仲間とつながる。
だから深まる。

↓

道徳的価値の自覚

道徳　城東スタイル　授業の進め方

番号	項目	内容
1	導入	導入は簡潔に行う。
2	導入	導入において，その時間に考える価値について触れない。 ネガティブな問いかけはしない。
3	範読	資料は生徒が想像しやすくするために教師が範読する。このときなるべく感情を込めて抑揚や強弱をつけることを意識する。
4	あらすじ	単なる読解に陥らないように，登場人物の行為に絞って教師が説明する。国語の読解は，文章のすべてを筆者の意図を考えて読み解いていくのに対して，道徳での読みは，登場人物の行為からその心情を読み取ることが大切である。
5	指名	挙手による自主的な発言に加えて，教師から指名して発言させる。指名する順番を明確にしてやることで，次に指名される生徒はより真剣に考えるようになる。つまり，意図的指名によって，一部の生徒だけでなく全員が考えようとし自分なりの意見を持つようになることを目指す。
6	時間配分	主発問に時間をかけて，この場面でより多くの生徒を指名する。
7	発問	「自分だったら」という発問は基本的には行わない。登場人物の着ぐるみを着て，その気持ちを深く考えさせることで，生徒は無意識に自分のことや価値について思考しているため。
8	切り返し発問	単語でしか答えない生徒には一問一答にしない。「何が？」「どんなふうに？」「どれくらい」などより深める質問をする。これは，本人の考えていることをうまく引き出し，本人の意見を認めていくねらいで行う。
9	共有	生徒の発言をクラス全体共有させるため，教師がもう一度同じ事を大きな声で言う。生徒との距離を意識して，生徒自身の声が小さくならないよう気を付ける。
10	称賛	生徒の発言を温かく受け止めることばを使う。すごいなぁ・すてきだなぁ・なるほどなぁ・ええこと言うなぁ・かっこいい・ありがとう・読みがふかいなぁ・わかるなぁなど
11	板書	生徒の発言は単語だけでもいいので構造的に書く。板書に時間をかけるのではなく，より多くの意見を出させ，生徒達とのやりとりを大切にする。
12	プリント	終末以外は途中で書かせない。生の声で発言させる。書かせると書いている瞬間は考えるが，友だちの考えを聞いて自分の考えにつなげることが希薄になる。とにかくその場その場で発言させ，常に考えているようにさせる。
13	終末	教師の価値観を押しつけてはいけないが，資料で迫った価値を補足するものであれば教師の体験談を聞かせることもある。また，必ず感想を書かせ，その時間に考えたことを振り返らせる。
14	評価	道徳ノートに今日の授業評価を入れる。「今日の資料はよかったですか。」「今日の授業は楽しかったですか。」「今日の授業は自分のためになりましたか。」「今日の授業で新しい発見がありましたか。」５段階で評価をさせ，効果を分析する。